

2024/6/3（月）

朝の礼拝

聖書 マタイによる福音書 6章 34節（新約聖書 11頁）

だから、明日のことを思い煩ってはならない。明日のことは明日自らが思い煩う。その日の苦勞は、その日だけで十分である。

明日への祈り

「思い煩い」は「心配する」「思い悩む」と他の日本語聖書では訳されています。確かに心配には「心を配る」「思いやり」という面もありますが、ここでは後に「その日の苦勞」とあるので「悩み」や「不安」のことです。

でも初めに「明日のことは明日自らが思い煩う」とありました。「明日」を擬人化します。まだ始まっていない、誰にもわからない、これからやってくる新しい一日があなたに「まだわからないよ、もう少し待とう」と言っています。

でもあなたは「もっとできたはずなのに、もっとしなきゃ」と後悔するかもしれません。そんなあなたに「その日の苦勞は、その日だけで十分である」とも言っています。「明日のあなたはそのままではない、私は知っている」と聞こえてくるようです。

至らない自分なのに、今日のわたしを赦し、明日のわたしを待ってくれる人がいる。今日も明日も、わたしたちの心には「思い煩い」がある。でも、わたしはひとりではない。明日を共に迎えてくれる人がいることを忘れたくありません。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、新しい朝を迎えられる幸いを感謝します。どうかわたしたちがひとり悩む時も必要な休みを与えられ、共に励まし合い、あなたが共におられる喜びに与らせてください。特に自然災害で困難な生活にある方々を省み、必要なものが備えられますように祈ります。また本日、来校下さった台湾の中学生の皆さんとの交わりを祝福し、その旅路をお守りください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン